

Tama Ritmo! -多摩のリズムで暮らそう!多摩のリズムを楽しもう!五感で楽しむ多摩の自然体験

多摩大学経営情報学部梅澤佳子ホームゼミナール3年 佐藤史彬 宮腰 裕

1. 活動の経緯

2020年1月に発生した新型コロナウイルスの影響により、長年ゼミで活動していた「多世代交流みんなの食卓プロジェクト」は休止が続いている。そこで私たち3年は、多摩地域マイクロツーリズムプロジェクト実行委員会主催「多摩地域マイクロツーリズムコンテスト」に参加することとした。

プロジェクトメンバーは多摩在住と遠方から通学しているアウトドア大好きな学生つまり地元・「よそ者・若者・ばか者」である。多摩地域の緑地・公園は、首都圏に住む人々にとって身近でたいへん魅力的な自然環境であり、特にコロナ禍においてマイクロツーリズムの考え方をした時、心と身体の健康に多摩地域の自然は重要であると考えた。

2. 活動内容

事前説明会(5/8)、マッチング会(8/3)に参加後、株式会社よみうりランドにヒアリング調査(8/20)に伺った。その後、活動支援金審査会(9/3)に臨んだ。残念ながら支援金の対象にならなかったが、その後、文献研究や議論を進め、元都立桜ヶ丘公園職員の方に私たちの提案内容に対してご意見・ご指導頂く

(2022/2/9)等取り組みを進めた。8月にNPO法人birthにヒアリング調査に伺うことになっていたが、新型コロナウイルスの感染急拡大により残念ながら調査を見送ることになった。

3. 多摩地域の特徴と魅力

多摩地域は自然環境に恵まれた多摩丘陵に位置している。首都圏から20~40km、鉄道を利用して30~40分程度と通勤だけでなく日帰りの余暇活動でも便利なエリアである。2年にわたる新型コロナウイルス感染症は、人々の余暇の意識や行動範囲を変えることになった。県をまたぐ移動の禁止や在宅勤務の普及で人々は近隣の自然環境に目を向け始めている。また、「地震に関する地域危険度測定調査」においても総合危険度が低い地域である。近年、大規模な自然災害が頻発する日本において、余暇の場が生活圏に近く「直ぐに戻れる距離」にあることは大き

な魅力である。

多摩・三浦丘陵は、2006年より13自治体が連携した広域連携会議が継続的に開催されている。会議は地域の重要な緑と水景を「みどりはつなぎ手」という共通認識に基づく環境保全と新たなコモンズの再生を目的としている。既に10のトレイルコースとウォーキングマップが紹介されている。また多摩地域の自治体、地域団体は多数の情報を発信している。

4. 提案内容

本研究は、このような既存の取り組み、施設を十分に活かしながら、学生目線で考えたアイデアにより、多世代が楽しめる都市近郊ならではの「時間活用型」余暇の過ごし方ができる自然環境を検討するものである。

「既存の緑地・公園のリノベーション」、自然環境の中で文化(自然学習、音楽、アート)も体験できる「森のテーマパーク」をたまの森、いなぎの森と各市が連携して「〇〇の森」を整備することでオール多摩で公園活性化を図る。キッチンカーの手配、レンタルチェア・ハンモック、孤独を楽しみたい人と交流を求めている人のためのバッチを用意する、足湯、これらの情報を発信できるカフェを併設したパークセンターなどを提案する。

まとめ

マッチング会では多くの企業が興味を持ってもらえたが「企画内容が大きすぎ現実的でない。」「施設や公園の遊具設置等の費用面が考えられていない。」「企業側にはメリットが少ない。」等々貴重な意見・アドバイスをという意見をいただいた。

今回の活動を通じて現場の調査、ヒアリング、しっかりと知識を得たうえで行動に移すことが大事であると学んだ。

謝辞

今回の活動でお世話になりましたコンペ事務局の皆様、ご協力、ご指導いただきました皆様に心より感謝を申し上げます。